

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870700317		
法人名	有限会社かなくぼ薬局		
事業所名	グループホームハーモニー城ノ内		
所在地	茨城県結城市結城8670-2		
自己評価作成日	2022年9月1日	評価結果市町村受理日	2023年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaipokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JigyousoCd=0870700317-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2022年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地、畑、水田、などが見渡せる高台にあり、豊かな緑の運動公園が近くにあり、またスーパーマーケットやホームセンター、外食チェーン店、市役所まで車で5～6分と便利な立地。建物は木造平屋、天井が高く自然彩光もあり、広々として、中庭もあり、屋外への出入りも段差が無く、平易である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平屋建てのホームはリビングが広く、ゆったりとした空間で、窓からの景色をさえぎるものもなく、畑や水田などが見渡せる。開設当初に掲げた理念を实践すべく問題を解決しながら頑張っている。職員は残存機能に合わせた生活のリズムを作り、一人一人の個性を大切に、楽しい一日を送れるよう努力している。また、コロナ禍で制限の多い日常の過ごし方に、様々な工夫がされていた。*新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHの玄関に理念を掲示し共有と実践に努めている。	理念は開設当時と大きく変わっていない。外部評価を振り返りの機会としている。理念のポイントは自立支援と、この土地で最期まで暮らす事である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防により交流していない。	コロナ禍前は利用者の家族が所属する有志のバンドや、カラオケ愛好会、同年代の方の踊りなどボランティアの訪問があった。社会福祉協議会から花の苗を購入し植えている。町内会との交流は運営推進会議でのやり取りのみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防のため地域貢献できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告、意見交換を行いサービスの向上に活かしている。はじめての委員の方から、どんな事をしているのかなど意見をいただき説明させて頂いた。	書面で実施している。メンバーは市役所、町内会長、民生委員、家族代表、ホーム職員。今年11月は入口のフロアを利用して、対面で行う予定。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナのため書面での報告だったが、4月には出席をいただき報告や意見交換できた。認定調査時にも協力し、サービスの向上に活かしている。	市役所から虐待の調査が入った。聞き取りなどの経験から、職員の虐待への意識の変化が見られた。職員との相性の問題から誤解されることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを事業所全体で取り組んでいる。全員研修資料にて勉強して提出している。	拘束廃止委員会があり、指針も作っているが職員の理解ができていなかった。研修はレポート提出形式で、模範解答を提示している。ヒヤリハットから虐待に繋りかねない事も考え、利用者の個人別発生状況をまとめている。	今回の経験を活かし、さらに職員への理解を徹底する事を次のステップとして期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても全員研修資料を勉強し提出、管理者は入居者・職員の変化などに注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1年に1回研修計画にあるが、実際の活用はしていない、必要とされたという場面を経験していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際には入居者様やご家族様には十分に説明をし理解納得を頂き同意を得ている、不安や疑問点を尋ね説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が利用料金のお支払いに見えた時やご面会に来られた時やお電話など頂いた時にご意見や感想や要望などを伺っている。	運営に関するアンケート実施している。家族とは書面でのやり取りで、ヒヤリハットの事例も開示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議などをしばらく行っていないが、勤務表作成時や行事の相談など、また連絡帳などを活用して、普段の職員の意見が反映されている。	リーダー会議やセクション会議は出来ていないため、職員間や管理者とその都度話し合う。連絡帳にメモに残したり、管理者が職員一人ひとりと話す事もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいにつながっているかどうか、人事評価基準、昇給、の仕組みを整備することなどの対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナ感染予防から、リモートでの昨年の認知症実践者研修に3名参加したが、1名だけ終了できた。読んで理解する、書いて表現することをトレーニングしたいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	結城市地域密着型介護サービス連絡協議会に参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前にご本人に面会し、ケアチェック表に沿って聞き取りしながら、会話する機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の説明時や契約時にご家族と話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居することが前提の関わりははじめのため、担当ケアマネからの情報から、判断されてきているのでグループホームで良いのか、よくよく説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と家事・レクリエーション等日常生活を共に過ごし一緒に行動することで暮らしを共にする者同士の関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が利用料金のお支払いに見えた時やご面会に来られた時などに必要な物はないかなど職員に確認し声掛けして下さる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	こちらから出かけていくことは、感染の危険があるため、無い。定期外来受診や急な受診には付き添いをお願いしているが、手紙や写真を届けてもらっている。	コロナ禍で以前の馴染みの関係継続は難しくなっている。ガラス越しの面会は、人によって難しい場合もある。子供や孫の写真、本人の若いころの写真を家族が持ってきてくれる時もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お誕生日会やゲーム、レクレーションなどを行い利用者様同士お互いの存在を認め楽しみながら交流を深められるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたり、特養に入所されたりした後、問い合わせがあれば、応じている。ご家族が懐かしく思って立ち寄ってくれることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で何気ない会話や行動を観察しながら上手く伝えられない事にも向き合い支援している。	職員は業務優先となり、利用者の本音を聞く時間を取ることが難しい。本人の思いを聞いて行動しても、家族の思いと異なることもあり、意見が寄せられたことがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からも伺うが、担当ケアマネからの情報を必ず頂いて、事前に職員が目を通して		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や状態の変化など観察とおして気づいたことは経過記録に詳細に記載し職員間で申し送りをし共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人によって、またご家族によって、その日によって状況が動くこともあり、ケアマネジャーを中心に介護計画を作成している。	プランはケアマネジャーを中心に作成している。モニタリングはチェック表を利用し、記録も参考にして毎月実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録、受診ノートへの記録にて職員間で共有しケアに反映させケアマネにも説明しプランの見直しにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ヘアカットサービス・個別送迎での外来受診の支援等行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内の障害者施設で栽培したサルビアやマリーゴールドの花苗を購入し、プランターに植えて、水やりは忘れがちでも楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から月1回の往診、病状によっては医師の指示に従いご家族に連絡し速外来受診の支援を行っている。受診ノートを活用している。	個人別の受診ノートを作成して記録している。ノートには医師のみでなく、薬の事等、職員が気になる事を記入している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日頃の入居者様の心身の状態を把握し異常の早期発見に努めている。異常がある場合は看護師に報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供書、ケアプラン、をできるだけ速やかに入院した病院、病棟に届けている。また連携支援室MSWの方と入院後の経過、予後について相談する場合もある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取りの指針の説明をしている。終末期をここでとの希望があれば、主治医の指示を頂きながら看取ることもある。	契約時に看取りについて説明している。主治医と家族で看取りについての話し合いをもつ。医師の協力を得て、看護師と連携を図り看取りを行った経験がある。職員は利用者に対し、自身の家族以上に情が湧くと語っていた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護事故発生の防止のための指針を作成、事故発生時の対応手順、基本的な家族対応の手順を作成し、職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	結城市地域密着型サービス事業所 災害時マニュアルや、避難訓練、避難経路、など備えている。災害に係る業務継続計画はまだ策定していない。	水害備蓄品の一覧ある。広域避難所は近くのスポーツセンターだが、広い敷地と建物の条件から、事業所に避難者を受け入れる可能性があると思われる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の一人一人の人格を尊重しプライバシーにも配慮して声掛け等対応している。	入浴やトイレ介助などの場面で注意している。個人毎の対応は職員間で共有されており、職員目線になっていないか、相手の気持ちを考えたかなど振り替えている。入浴拒否があり暴力的な利用者について、なぜそうなるのか考えてみた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意見を尊重するために常にわかりやすいように声掛けし確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員も心にゆとりを持ち利用者様と向き合い一人一人のペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡の前で髪をとかしたり、髪飾りやヘアピンで止めたり、ベストを羽織ったり、などの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一部の利用者様にはおやつ準備、配膳、下膳など手伝って頂き自立支援ができるようにしている。	献立・食材は業者委託しており、季節に合わせて考えられている。誕生日会でケーキやちらし寿司を提供したことがある。きゅうりやカボチャ収穫して食卓に並ぶ事もある。昼はデイサービスの厨房と一緒に調理し、朝夕のみホームで調理する。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分、摂取の確認、利用者様の状態に応じた食事形態や適量に配慮し栄養不足や栄養バランスに注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き、うがい、を促し個別に支援している。義歯は就寝前に預かり洗浄剤にひたして置いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している方、声掛けや誘導が必要な方、個人の排泄パターンやレベルに合わせた支援をしている。日中と夜間の対応が異なる場合もある。	排泄チェック表は引き継ぎ時に共有し、声掛けのタイミングを考える。自立されている方もいる。家族の経済的負担も考えながらパット類を選ぶ。以前はおむつメーカーの研修に参加し役立っていたが、コロナ禍で研修会が開催されなくなった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲水量、排便、などの記録を基に運動を促したり、薬を調整したり、看護師に、腸のグル音を確認してもらったり、敵便の時もあり、一方では効果が過ぎて水様便の時もあり、個々に工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯を決めて職員の配置を固定しているの、夜寝る前に入りたいと思う方には対応できていない。出来る範囲で対応している。	力が必要な利用者があり、男子職員が日勤の時を入浴日としている。入浴拒否があり、入浴が難しい状況になる方もいるが、なぜそうなるかを職員で考えてみた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣や状態、生活歴に応じて昼寝、またはテレビ鑑賞をしている。夕食後はのんびりと会話を楽しみリラックスして頂き安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師、管理者、により服薬指導あり、職員がその度確認している。ダブルチェックを行い誤薬の無いように注意して、服薬後は服薬チェック表に記入し、万全の態勢で支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の残存機能を活かし日々の生活の中で行える塗り絵や折り紙等掲示する作品も職員と作成し、張り合いや生きがい、楽しみを見出せるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は職員と一緒に建物の周辺を散策している。花見のドライブなどにも出かけ、年間行事予定表を作成し、それに沿って支援している。	敷地内を散歩したり敷地内にあるみかんや柿の収穫を楽しむ。以前は歩ける人だけで近くの運動公園にも行っていたが、現在はコロナ禍ということもあり自粛している。ここ数年間の規制で外出への意欲が低下している様に感じている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段はお金の所持はしていない。ドライブの時自動販売機で飲み物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの要望があった際には随時支援している。お手紙やお花や洋服などが届いたときには必ず手渡してお部屋に飾って頂いたり手紙を読んで差し上げたり支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭など草花が季節ごとに咲き歩行訓練を兼ね花を摘んだり、掲示してある絵や写真を眺めて会話したり、ここでの生活を楽しんでいる様子がみられる。	段差による転倒の経験あり、フロア内の環境を見直した。利用者の動線に危険がないよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を置いたり畳のスペースやテーブル、本棚、鏡台、などあり、居場所の確保や環境づくりに工夫している。		
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を置いたり自分の作品を飾ったりじぶんから馴染みの物を持ってきてくれるようにしている。しょくいんがお部屋の整理整頓の手伝いをしている。	自宅から位牌を持ってきた方がいる。清掃は職員が行い、常にドアの開閉や明かり、トイレの臭いなどに気を付けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	名札やトイレの表示など見やすく分かりやすく、暮らしの空間の清潔を保つよう整理整頓、清掃、を心がけ、安心して過ごしていただけるよう努めている。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームハーモニー城ノ内

目標達成計画

作成年月日 : 2023年1月18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		身体拘束をしないケアの実践において、指針や委員会もあるが職員の理解が出来ていなかった。	職員一人ひとりが身体拘束等適正化に係る指針、権利擁護及び虐待防止に係る指針、を理解し、再発防止に向けた取り組みを実践すること。	研修、委員会、セクション会議、個人面談などを実施し、互いの意見を出し合える機会を増やしていく。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。